



# 「ロボット産業活性化事業」の概要

---



# ロボット産業活性化事業概要

ロボットは、産業分野に限らず生活の質の向上や安全・安心な社会の実現など、日常生活を含むさまざまな場面での活用が期待されています。中小企業が、既存のロボット技術や研究成果・技術シーズを活用することにより、これらの新たなロボット分野へ参入する可能性があります。

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（都産技研）は、単なるロボット技術開発にとどまらず、必要とされるサービス分野において、商品となるロボットを創り「実用化」、それらのロボットを活かした新しいサービスの提供「事業化」を目指す中小企業を支援するため、「ロボット産業活性化事業」を実施してきました。

## 支援メニュー

本事業では、5つの支援メニューで中小企業のロボット産業への参入を支援しました。

### ①技術開発

【基盤技術開発】中小企業が一から開発することなく使える技術を都産技研の研究員が開発しました。

【共同研究開発】ロボットの実用化を目指した共同研究開発を促進しました。

### ②事業化支援

ロボットの事業化を目指す全国の中小企業が集結し、ロボットエンジニアやユーザー企業などとの交流を図りました。

### ③試作・評価支援

ロボットの試作開発に必要な設備や、日常の生活を模擬した環境を整備し、ロボットの動作確認を実施しました。

### ④安全認証技術支援

人と共存する環境で、ロボットが安全に機能するかどうかを確認するための試験を行いました。

### ⑤ロボット産業人材育成

ロボット活用への意識の醸成、システムインテグレーターやエンジニア育成のための講演会を開催しました。

## SCHEDULE 事業スケジュール

事業実施主体：地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター  
事業期間：平成27年度から平成31年度

平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)
東京ロボット産業支援プラザの運営					
<b>1 技術開発</b>					
サービスの設計		実用化、製品化・事業化 ロボットの社会実装			
ロボットシステムの開発 ・T型ロボットベースの開発 ・知能化技術導入・開発 ・安全認証技術の確立					
ロボットの実用化を目指した共同研究開発の促進					
<b>2 事業化支援</b>					
ロボットの事業化を目指す全国の中小企業を集結、オープンイノベーション促進					
ロボットユーザーの発掘や国内外の展示会などの機会を活用し、中小企業の市場開拓を支援					
<b>3 試作・評価支援</b>					
機器整備		試作支援・実証実験支援の実施			
<b>4 安全認証技術支援</b>					
機器整備		安全性検証試験の実施			
<b>5 ロボット産業人材育成</b>					
ロボット活用への意識醸成、システムインテグレーターやエンジニア養成のための講習会開催					

ロボットの社会実装に向けた取り組み  
(サービスロボット社会実装支援事業)

# サービスロボットの共創

都産技研では、中小企業がロボットを事業化するための支援メニューとして、公募型共同研究開発事業、サービスロボット Sler人材育成事業を実施しました。

これらの事業は、都産技研が技術シーズや評価設備、研究資金を企業に提供しながら共同研究を進めることで、開発したロボットの製品化・事業化へのスピードを加速することを目的としたものです。

## 🔧公募型共同研究開発事業

案内支援、産業支援、点検支援、介護支援の4分野を対象として、支援分野に合致したビジネス提案を募集し、事業化の実現可能性の高い提案について、都産技研も参画し事業化に向けた共同研究開発を実施しました。新たなサービス/ビジネスを創出することにより、中小企業のロボット産業への参入実現を目指しています。

## 🔧サービスロボットSler人材育成事業

中小企業の保有する技術力やビジネスプランを含んだロボット（ロボットシステム）の活用方法に関する企画提案（ビジネスモデル提案）を募り、事業化の実現性の高い提案について、都産技研と企業が共同研究を実施しました。サービスロボット Sler の育成を図り、ロボット（ロボットシステム）を使ったサービス/ビジネスを早期に実現することを目指しています。

### 研究テーマの分野

以下の各支援分野に合致したビジネス提案について研究を行い、新たなサービス/ビジネスを創出することにより、中小企業のロボット産業への参入、サービスロボット Sler の育成を進めました。

